科目名	親族・相続法Ｂ　　Civil Law: Family and Succession B						
科目担当者	毛利 朋美　　MOURI Tomomi						
単位数	２	配当年次	３年	授業形態	講義	開講学期	後期
履修学部・学科［区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科［専門教育科目　専門科目］ 他学部他学科履修〇					ディプロマポリシーとの関連	(2)(4)
授業の概要	親族、相続、扶養などの知識を前提として、遺産相続制度（法定相続・遺言による相続及び遺言相続における調整手段《遺留分制度》など）について講義します。 本講義では Moodle 内で資料を配布し、これに基づいて解説します。詳しい内容は「授業計画・内容」の欄を参考にして下さい。 本講義では遺産相続制度の概要をきちんと理解すること、将来学生の皆さんが遺産相続に関わる際に必要な知識を修得してもらうこと、また、法的思考力を身につけてもらうことを目標にしています。講義中も積極的に取り組み、特に講義の復習に時間をかけて下さい。						
授業の到達目標	①相続制度の概要を理解する。 ②身分法(親族・相続)を、個人の視点と国家の視点の双方から見ることを学ぶ。 ③裁判例等の具体的事例を通して、法的思考を身につける。 ④レポート等の課題により、法学部における正しい文章の構成や書き方を学ぶ。						

授業計画・内容

1	第１章：総論	相続の意義、相続法の変遷、相続の根拠
2	第２章：相続人	相続人、代襲相続、相続欠格制度、推定相続人の廃除、相続回復請求権
3	第３章：相続の効力	相続分、特別受益者の相続分、寄与分、相続の効力
4		相続財産に含まれるものと含まれないもの
5	第４章：遺産分割	遺産分割方法、遺産分割の禁止、遺産分割の当事者
6		遺産分割の効力
7	第５章：相続の承認と放棄	熟慮期間、相続の承認
8		相続の放棄
9	第６章：相続財産の清算	財産分離、相続人の不存在
10	第７章：遺言	遺言の意義、遺言の方式、遺言の効力
11		普通方式の遺言
12		遺贈、遺言の執行
13	第８章：遺留分制度	制度の意義、遺留分の割合、遺留分侵害額の請求書
14		行使期間の制限、放棄
15	総括	

授業外学修 (事前学修)	シラバスに記載された「授業計画」を確認し、講義のタイトルからその分野の文献を手にとって読んでみる。必要であれば興味のある内容をノート等にまとめておく（毎週２時間程度)。
授業外学修 (事後学修)	講義の復習を行い、疑問点がある場合には図書館等に足を運び文献を使って調べる（毎週２時間程度）。

成績評価方法・評価比率・到達目標との対応

成績評価方法	評価比率	到達目標との対応
定期試験	50%	②、③、④
授業中の小テスト	20%	①、②
２回の課題の提出	30%	①、③、④

成績評価基準

秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合
優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合
良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合
可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合
不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合

教科書	講義内で「六法」や、オンラインでの条文検索を使用します。
参考文献	『家族法［第４版]』(スタンダール民法シリーズＶ,嵯峨野書院)
その他	定期試験時は紙書籍の六法を持ち込み可とします（電子書籍不可）。